（日刊）（明治四十一年七月十四日第三種郵便物認可）　明治四十一年七月十四日　京城新聞　（火曜日）　第八號　（一）

京城新聞

●桂褌録

勿禁生

▲去る九日發刊の鎭南浦新報に「京城の言論界」と題して在京城の風雲子とか云ふ餘り名を聞かない先生が京城の新聞紙に對して極めて大膽にして奇拔な批評を試みて居つた中に京城現下の文壇を形容して文運蔚然、眞に文壇の偉觀とあつたが全くソレに相違ないので其の偉觀の光景は恐らく朝鮮に於てのみならず、列國の首府を別にしては殆んど他に比のないと言つても可い位である、而り京城の文壇は異常殷賑の極に達して居る

▲ソレから京城新聞を捉へて統監政策の反對者はマヅ此の新聞を以て急先鋒となす、急言讜論正面より統監府に肉薄するは此の新聞の態度なりとあつたがコレも實際其の通りで世人の夙に熟知して居る所であるが併し同新聞の本領は何にも好んで統監府に反對するといふのではなく寧ろ一歩進んで「斯くあれかし」「還うあれかし」と警醒するので決して徹頭徹尾反對するものでないといふ事丈は諒知してやらねばならぬ、勿論急言讜論は同新聞の持性には相違ないが此の持性があつてこそ今では居然一方に覇を稱へ巍然中外に重きを爲して居るのである

▲重ねていふが風雲子とは漢城に於ける何人の雅號かは知らねどもトモカクも子は唯の素人でない事は明かである筆は進んで服部暢氏が御用記者としての識慮及筆致に就て月旦する所あつたがナカ〳〵に眞を穿ち要を捉へて居る、其の氏が強ちに人を辨護せんが爲めに辨護するにあらず、自然に文章が流露して……故に氏には辨護の痕なく讀者をして時に彼の御用紙たるを忘れしむ云々とあるが此れは單り風雲子のみならず一般世人の熟知して居る所である併し風雲子は大胆にも敢て忌憚なく此の語を恣にした此點に就ては我輩は確に子が心事を偉とし壯とするのである

▲次に子は新來主筆原田某氏の門出について批評の筆を試みたが此れは實際痛快で大に我輩の意を得たものである、勿論新聞記者といふものは宛かも裸一貫の相撲取りと同じ事、實力を以て世に立つて行くのであるから其の一身を飾る肩書とか虚名とかいふものは要つたものではない……尤も有つたからといつて別に差支ではないが……唯一枚の筆……黄金の以て曲ぐべからざる、權勢の以て屈すべからざる毅然たる信念を土臺として其の自ら身に備はつて居る、見識學才を遺憾なく筆に現はして社會に發表して行けばソレで可いものである原田氏がナマジイ朝鮮あたりの新聞記者にドウセ碌なものはないと高を括つたのがそも〳〵の間違ひ、什麼して今ではソレ相當に立派な新聞記者も來て居るのである、子の所謂腹背敵を受け、如何に重圍を脱せんとするかこの懸慮は正に左あるべき事である……門出の武者振り、我輩も之から氏のお手際を拜見せんとするもの〻一人である

小説　新不如歸（五十二）

篠原嶺葉著

「貴方何日頃お出でなすつて。」と、問ひかけたは奈加子であつた。

「私も今來て此處に坐たばかりなんです。」答へたは猿渡勘兵衛である。

「然う、私遲くなつたかと思つて大急ぎで來たんですよ。」云ひつゝ、吾妻コートを脱いで隅の方に片寄せ、火桶を挟むでそれに坐つた。

「敏男さんが支那へお出發になつたさうですが、些とも存じないもんですから、お見送も致しませんで……貴方からの御手紙で始めて知つたやうな譯です。」



「なに貴方、あまり突然だつたもんですから、本人さへも慌いた位で、誰方も御存じはないのですよ、なんで見送りなんか要るもんですか、實はね早く一援た顔が見たいと思つて、手紙を差上げやうかと思つたのですけれど、邪魔者が出來たもんですから、敏男が留守になると、直に出行くやうに思はれてもならないと思つて、それで漸く昨日手紙を出したやうな理なんです。」

これは、彼の赤阪溜池町の待合兼料理屋なる三河屋の房離に、奈加子と猿渡とが密會したのである。

酒肴の杯盤が列べられて、聞くすると、互ひに差しつ差されつ、誠に樂しさうな樣子、奈加子は目に可厭らしい、媚を見せながら、

「こんな苦しい思をして偶逢はなくつても、鳥子さんさへ私の家の人になつて貰や貴方が來て下さらうが、私が貴方の宅へ上らうが、他人に怪しまれる氣遣ひはないんですけれど、此麼待合なんかに出入りするのは、異個心配で爲やうがありませんのね。」と、云へば猿渡は持つたる杯を下に置き、

「さあ、成ることなら一日も早く然うして頂くと、我々が會ふのにも此麼所へ出て、世間を憚りながら會はなくつても秘密の公然でうれこそ、天下晴て會はれるんですし第一娘が甚麼に喜びますことやら。」

「其後鳥子さんの御病氣は如何です、今もお話する通りで、敏男が出發やら何や彼やで出難かつたもんですから、ツイあれきりでお見舞にも上らないで、本當に相濟みませんでしたことね。」

「貴方がお出で下さつて、あゝ云ふ話を聞かせて下すつてからは、全然嘘を吐いたやうに癒つて了ひまして、もう貴方の家の人になつたやうな意で、今日も何を云ふかと思へば、一度尾花の母樣の所へ遊びに行くつて云ふのです、もう貴方の事を母樣と云ふのですもの、實に其事ばかり云つてるんですから爲方がありませんよ。」

「まあ、然うですか、嘘にも然う云つて下さりや本當に私も嬉しく思ひますよ、所で御相談申したいのは其事ですがね、如何したものでせう、私の考へでは、丁度敏男が不在で、何をするにも今が一番爲易いと思ふのですが、何か嫁を離縁する宜い工夫は無いものでせうか、私が辛く當つた位では迚も一月や二月でいぢり出す理にや行きませんからね、どうか良い考へがお有んなさるなら、相談に乘つて下さいな。」

するど、突然次の室の中から、

「其の智惠は僕が貸して上げませう。」

云ひつゝ、襖を開けて現はれた人がある。二人は魂が身に添はぬまで吃驚して、言合した如く其顔を仰向けた。これは何者であらう。

東城新聞

伊藤統監を送る

敬愛する我伊藤統監は愈々本日を以て亦も任地を去り、特に海軍省より差廻はされたる軍艦吾妻に搭乘して歸朝の途に上られんとす、世人は統監が任地に腰の据らざるを難ずれども、尊榮高貴の身を以て而も古稀の老軀を提げて、日韓兩國を股に懸け内外重要の政務に鞅掌せられ東奔西馳の勢を取らるゝこと、邦家の爲とは云ひながら其崇高なる觀念と多大の勞苦とに對しては滿腔の敬意を表せざるを得ざるなり。

惟ふに統監も徒に任地を空くして頻繁なる往復の煩を好むに非ざるも、今や淵國多事の折柄公の身邊歸朝の止むべからざるの事情あらん、亦た韓國の經營も未だ効績の擧りたるもの少く前途尚ほ遼遠の觀あり、身は之れ一個にして其爲すことの儘ならざるは常に公の憾とする所ならん、余輩も亦た其心事を諒とせざるに非ざるも、由來公の心裡には乃公に非ざれば能くなし能はざるべしとの自負心強きが爲に、過重の責任を肩上に負ふて自ら好で煩悶するが如き傾向なきに非ず、二兎を追ふものは一兎をも得ざる格言の如く、往々見苦しき遁辭の下に回避せざるを得ざる窮境に迫ることあり、故に多くは龍頭蛇尾に終るの觀なくんば非ず、意志の强固ならざる政治家には此種の失敗あるを免れざるなり。

今次歸任中の施設を見るに何等の擧ぐべき事績を見出さず、唯暴徒討伐に就て軍隊増遣を決したることが稍々囑目するに足るのみ、内閣員役割の繰替と地方行政刷新の爲に觀察使の更迭とは未だ以て効ありとすべからず、地方行政刷新は急務なり、之に着目せられたるは大に喜ぶべしと雖も、眞個に之が刷新を計らんとすれば今一層果斷の所置に出でざれば更に其効果なきを感ぜざるを得ず、要するに其施設せられたる處のものが今後に於て多大の成績を顯はすべきものあらざるを譲認せざるを得ず、今回の歸朝に際し元老金允植を伴はるゝが如き、何れの方面より觀察するも、公の韓國經營は殆ど窮極に達せるの觀なきに非ず、然れども物は窮すれば通ずるの格言あり、韓國經營亦た一道の光明燦として來らん乎。

俄然反響は來る、我敬愛せる伊藤統監は居留民の送別會に臨で其所懷を述べらる、最後に曰く統監は更迭するも對韓方針は不變なり、更に一轉語を下して曰く、韓國人にして我に背くの行動を爲すに於ては、何たる巧妙の辭言ぞや、之に依りて見れば統監の更迭なしとは斷言すべからず、尊き老体を提げて韓國統治の大任に當るを辭せらるゝやも未だ知るべからず、余輩は衷心より公が今日迄盡せる多大の勞苦を謝すると共に、公が統監を辭すると辭せざるとに係らず、後事を副統監に一任して自負心より之を翻すことなく其手腕を自由に揮はしむるの雅量を要請せざるを得ず、而して公は内にありて力を國政に添へ、徐ろに靜養して心神を安じ、帝國の柱石として長へに健在なれ、余輩は今や公を送るに際し其功績の如何は措て、保護政策に苦心慘憺せられたる勞に對し敬意と同情を禁ずる能はざるなり。

●漢城便り

▲一昨日日本人倶樂部に於て開催せる統監送別會は近頃の盛會にて有之候發企人一同は申すに及ばず主賓公に於ても御滿足の体に相見受け申候時候柄とは云へ大勳位閣下がいつもの滿艦飾ならざりしは來會平民の嬉敷感じたるところと存候

▲送別會に於ける公はいつもの公と大に異なりたるもの有之候來會者は公の長廣舌を豫期致居候而るに豈料らんや遂に此事なく却て其代りとも云ふべきか公はいつもになき雄辯を以て肺腑の言を吐露致され候曰く「統監は換わるとも我對韓方針は變わらず而れども朝鮮人にして若し不心得の働を爲す場合に於ては开は別問題なり」と

▲記者は統監公の肺腑の言を聞きたるは今度が始てに御座候公が統監を止めて他が代りし場合に於ても我對韓方針の變わることなかるべしとの御説は御尤に御座候只公の相續者が朝鮮人不心得の程度を判する標準を何に因つて定むるかは其時と事情とにより候事と被存候

▲十萬の居留民中統監の更迭を希望するなどの不都合なる輩は一人も無之かるべしと被存候斯申す記者の如きは伊藤統監有つて始めて漢城の天地に自由に呼吸をなし得るものに御座候願はくは公たるもの仲秋月圓く暴徒化して鼓腹の良民となりし頃尙一回御渡韓の上居留民をして公然惜別の情を露わすの榮と機會とを得せしめられ度切望の次第に御座候

▲諸種の情報に依れば第一銀行券の引換は百害有つて一利なきものゝ如くに御座候猜疑心深き韓人は例を曾て韓國政府の爲したるところに採り亦々大にしてやらるゝなるべしなど疑懼の念を以て滿され居候ものゝ如くに御座候

▲新券に對する韓人の流説中新券は不換紙幣なりなどの説も有之候様及聞申候ソレカアラヌカ韓人にして今や舊券を安心の爲日本銀行券と引換ゆるもの夥だしき程有之候との事に御座候其影響として韓人社會は時ならぬ金融逼迫を引起し爲に經濟界は攪亂せられんとする有様なりとの事に御座候序に申す舊券の信用は韓人の嗜好に適せずと云はるゝ澁澤男の肖像に依つて築かれたるものに御座候而して新券の不信は數次貨幣に就て韓民に迷惑を掛けたる事ある大韓國政府關係より來るものなりとの事に御座候記者は將來に於て一銀券發行高の減少を恐れ同時に貿易上に惡果の來らんことを恐るゝものに御座候

東京電報

▲大命桂侯に下る

桂侯今日宮中に參内し後繼内閣組織の大命を拜したり親任式は明日宮中に於て行はせらる

▲閣員の顏觸變更

後繼内閣員の顏觸豫定より變更し内務は大浦、司法は波多野、大藏は平田、外務は小村、海軍は齋藤、以上は間違無く陸相は桂首相兼任なるべく文部遞信農商務は小松原、都築、他一名に按配せらるべし

▲統監奉答の内容

日高特使の奉呈せし伊藤統監の奉答書中には新内閣組織に就き三箇條の重要條件を記載有り

▲新内閣の財政計畫

新内閣は軍事費の繰延べを行ひ其の剩餘金を行政財政の整理による節約費等を以て國債の償還に充つる胸算にて目下宣言書記草中なり(以上十二日發)

▲内閣瓦解と地方官

内閣交迭の結果東京府知事北海道長官其他五六の知事に變動あるべし(十三日發)

雜報

●伊藤統監の謁見

伊藤統監は愈よ本日出發歸朝の途に就かるゝを以て一昨日御暇乞の爲め昌德宮に參内謁見し御暇乞申上られたる後御陪食仰付けられたり其人々は左の如し

伊藤統監、曾禰副統監、村田少將、小宮次官、國分、古谷兩秘書官、義親王、李總理、閔宮内、李軍部の三大臣、海豐府院君、尹澤榮、侍從院卿尹德榮、禮式官高羲誠

●伊藤統監の出發

伊藤統監には愈々本日午後四時十分南大門發にて下仁し理事廳に一泊の上軍艦吾妻に搭乘し十七日下關に着せらるゝ筈にて隨行員は岩崎海軍少將、古谷秘書官、藤波通譯官其他三四名の人々にて當民團に於ては國旗を掲げ停車場にては烟火を打揚げ敬意を表すると云ふ

●金允植氏出發

皇太子御見舞として渡日を命せられたる中樞院議長金允植氏は隨員宮内府典祀鄭秉朝慶善宮祇候官嚴柱易、承寧府侍從徐丙協等を隨へ伊藤統監と同伴本日午後四時出發すると云ふ

●鶴原長官出發

鶴原總務長官は統監一行と共に本日出發せらる

●吾妻艦の入港

伊藤統監には明十五日歸東につき之が便乘船として軍艦吾妻本朝入港の筈

●統監府縮少

目下來城中の梅博士の手に因り統監府縮少後の官制草案起稿せられたりとの說あり

●統監送別會

豫報の如く伊藤統監送別會は一昨日午後六時より日本人倶樂部に於て開催せられたり定刻に至り伊藤公には村田少將を從ひ曾禰副統監、鶴原長官、木内、石塚、田原の各參與官と共に臨場せられ暫時別席に於て休憩の後六時三十分食堂の開かるゝや公は三浦熊谷の兩氏其他發企人の案內により副統監其他と共に食卓に就かれたり此時來會の官民貳百名餘一齊に食堂に入り談笑湧くが如く興酣ならんとするや發起人總代熊谷民長は徐ろに立ちて左の意味の送別の辭を述べたり

伊藤統監閣下自分は一同に代り閣下が本夕の粗宴に副統監閣下其他と共に御歸朝前殊に政務御多忙の際なるにも不拘御臨席下されたるを深く光榮として感謝するものなり今や時炎暑に當るも閣下の健康が益々良好なるを見て居留民一同は深く喜んで措かず謹みて閣下を送るものなり云々

次で伊藤統監には身を起し平素に無き最も謹嚴の體度を以て口を開き左の意味の答辭を述べられたり

諸君本夕は予の爲に斯る盛宴を開き予の歸朝を送らるゝを感謝致します今や世間にては予の身上に付種々揣摩臆測するが如しと雖も悉皆當れりとは云ふべからず本邦內閣の更迭するは事實なり而れども內閣の更迭によりて我對韓方針は變るものにあらず統監其人は或は變わることあるとも現對韓方針の變わることは萬々有るべからず而れども朝鮮人にして不心得を働く場合に於ては开は別問題なり云々

夫より三浦理事官の發聲にて統監の萬歲を三唱して了つて來會者は三々五々庭內涼風來るの邊に設けられたる模擬店に於て茶菓を喫し統監の退場と共に閉會したるは九時過なりし由なり

●改正官制の發布

改正せらるべき警視廳及び地方の官制は法制局に於て草案に就き調査中なりしが彌々本日の閣議にて確定し統監府の承認を受くる筈なれば兩三日中に發布せらるべし

●普通學校教監會議

學部は夏期休暇を利用し全國官公立普通學校教監五十八名を召集し明十五日より四日間毎日午前九時より師範學校に於て會議を開催し師範學校學監及び訓導三名をも參加せしむ

●財産整理局と量地課

度支部臨時財源調査局は調査課量地課の兩課に分れ量地課に於ては土地測量及び整理事務の　査及び準備に關する事土地臺帳調製の準備に關する事地圖調製に關する事測量技術者養成に關する事を掌れるが今回同部に財產整理局を新設して國有財產の調査整理の事務を掌るに就ては量地課を同局に移屬する事となしたりと云ふ

●憲兵補充條例改正

從來各兵科豫後備より補充せし憲兵上等兵は就職中全く下士に昇進するの道なかりしが今回條例改正の結果一個年以上就職する補充豫後備憲兵は成蹟優秀なる者に限り缺員に應じて憲兵下士に昇級せしむる事となりたりと

●北韓沿岸航路計畫

咸鏡南北道及び江原道の沿岸が海上の交通機關を缺ぎ漁業及び商業上頗る不便なる現狀に存する事は人の知る處なるが今回元山の有志者に右三道の沿岸を全通する滊船航路を創始するの計畫あり就ては韓南滊船會社の例に倣ひ韓國政府の補助を受くるの希望にて現に元山以北の航路を經營せる元山の吉田秀次郎氏來京し目下來京中なる若松元山理事官と共に當局に向て請願中なりと云ふ

●黃海道沿岸の密輸入

昨今黃海道沿岸の魚漁期に入りたるを以て是等魚類と交換の目的を以て食塩綿糸棉布等を密輸入する支那人漸く多きを加へ龍岩浦監視所に於ては極力其取締に努めつゝある次第なるが昨日仁川稅關に到着したる報に依れば龍岩浦監視船は古今浦附近にて六隻馬山串附近にて八隻の支那密輸船を拿補し目下嚴重に取調中なるが彼等の自白する所によれば其大半は芝罘船にして密輸入の目的を以て韓國沿岸に密航し來りたるもの數百隻もあるべしといふ

●採木公司細則

採木公司協定に關する細則は目下奉天に於て日清兩國委員協定中なるも意見の衝突往々にして捗々しく進行せざる由にて今後猶十五六日間を要するならんと而して該細則協定發布の上は木材廠は解散し採木公司の名義を以て一般木材の買收を爲す計畫なりといふ

●仁川居留民會

仁川居留民會にては豫報の如く本日午後七時より左の議件に就て民會を開くこととなれり

一　明治四十一年度特別會計仁川病院歲出入追加豫算

一　公會堂使用に關する件

一　仁川居留民團立仁川病院規則中改正の件

一　仁川居留民團旅費規則中改正の件

一　仁川居留民團立學校職員諸給與規則中改正の件

●地料低減請願提出

仁川宮町通りの民團貸下地々料低減方を同借主より請願の件は既報の如くなるが右請願書は一昨日漸く各借主の連署を終りたるに依り昨日午前借主大會を催し請願書を民團に提出し方々今後の方針等を定むる筈なりといふ

●衞生費の支出

内部は臨時衞生費中より今回傳染病豫防費として警視廳へ千圓全州警察署へ三百圓隔離病院修理費として釜山警察署へ九十圓新義州警察署へ七十五圓各支出せり

●昨年中の電報通數

統監府通信管理局に於て取扱ひたる昨年に於ける電報通數は韓國(韓國滿州間を含む)發信和文有料五十九萬六千五百八十二、無料十五萬九千三百五十三、歐文有料四千三十、無料六百六十一、譯文有料七萬八千三百四十八、無料七萬九千七百八十三合計有料六十七萬八千九百六十、無料十六萬千四百四十九總計八十四萬四百九、外國(本邦及諸國との間)發信和文有料二十九萬三千八百九十五、無料四萬二千六百六十九、歐文有料五千二百十四、無料九千二十二、小計有料二十九萬九千百九、無料五萬千六百九十一、合計三十五萬八百、着信和文有料二十四萬九千百四十一、無料四萬六百六十四歐文有料四千九百六十七、無料一萬千三百六十六、小計有料二十五萬四千百十二、無料五萬二千三十、合計三十萬六千百四十二にして之れが四十七萬九千六百八十八圓八十錢五厘なりし

●夏布輸入增加

昨今上海芝罘等より仁川へ入港する船舶は毎船必ず麻布を積載し居れるが該品は韓人の衣類に供せらるゝものにして其輸入額の如きも驚くべき巨額に達せり仁川稅關の調査に依れば本品の輸入は時に多少の差ありと雖も常に百萬圓前後にして本年の如きは昨今既に百數十萬圓に達し尙ほ引續き巨額の輸入ある筈なるが邦人の本品販賣に從事する者なく主として支那商人の手に依りて輸入されつゝあり從つて日本製品の輸入は殆んど皆無にて淸國製品八分韓國產二分の割合なり輸出港は上海、煙臺、芝罘を主とし韓國の諸港亦多少の輸出を爲せり需要者は京城地方最も多く仁川附近之れに次ぎ以下北は平南開城南は水原大邱等亦仁川の勢力範圍に屬せり

●曾禰副統監の移轉

曾禰副統監の現官邸は家屋の構造不完全にて夏季は非常に暑く冬季は又非常に寒冷なるを以て統監歸朝不在中は同統監官邸に移轉せらるゝ由なりと聞く

●理事官轉任說に就て

前號所報の京城釜山馬山の三理事官交迭あるべしとの說は其筋の人は全く無根なりと云へり

●長山乙介氏

元日語學校教師の同氏は退職後身を閑散の地に置かれたりしが今回其筋の懇命になり韓警視廳囑託員となり高等警察事務報告に鞅掌せらることゝなれり

●中島司馬之助氏の退社

多年大阪毎日新聞社京城支局長として通信に從事し令名高かりし中島司馬之助氏は今回家事上の都合にて辭職したるを以て同社にては氏の十一年半勤續の功勞に酬ゆるため慰勞金二千三百圓を贈與し且客員の待遇をなす事となせりと云ふ

●原島技師の出張

農商工部農務局畜產課長原島技師は牛疫調査のため一昨日出發大邱釜山及び日本福浦檢疫所に出張せり

●民團吏員任用

掃除巡視員木田平三、中村辰藏は何れも十三日京城民團吏員に任用したり

●志村母堂の死去

京城仲介社長志村作太郎氏の母堂は過日來病氣に罹り臥床中の處藥石効なく昨日午前九時頃死去されたり

公人私人

△向坂幾三郎(統監府技師)一昨日來京浦尾

△秋本豐之進(鎮南浦理事官)昨日來京山本

△小川錄五郎(石川島造船所員)巴城館へ

△澤田乙三(黄海道書計官)海州へ歸任

△大町豐五郎(陸軍三等主計正)一昨日釜山に向へり

△小笠原寛(水原財務官)一昨日歸任

△角田啓司(奉天農事試驗場技師)一昨日水原へ向へり

△カブシ(加奈陀鑛業會社員)一昨日來京東海旅館

△蘆田直吉(度支部建築技師)筑紫館へ

●喬桐暴徒捕縛

仁川署管內喬桐郡駐在巡查は暴徒の嫌疑者三名を逮捕し同時に銃器刀劍をも拿捕の上一昨日仁川署に押送したり

●近事片々

▲統監　歸朝と共に統監府縮少說起る總務長官廢止副統監廢止の兩說有眞僞如何にや

▲統監　府は縮少する餘地あり此際斷行して事務の敏捷を計るは不要の事に非ざる也

▲鶴原　君の歸朝に就ては種々の說あり今時分豈夫日銀總裁の運動にもあるまじ疑問

▲鶴原　君の總務長官たると否とが我對韓經營に何等の影響なし行動は御隨意にて候

▲兪吉　濬教科書不認可に憤て更に躍起運動を初むとは眞かさりとは國士の面影なし

▲興士　團を本據として張博權重顯等と結び全國の士氣を鼓舞せんとは例の風說耳か

▲併し　彼の教科書は全く不可也政治を離れて眞面目の教科書を更に編纂するが上策

▲斯る　政治的教科書を以て士を奧さんとするは甚だ謬見偶以て國を誤るの具となる

▲韓人　政客中には多く斯る謬見を抱ける者あり韓國の振はざる原因將さに玆にあり

▲祖國　内閣更迭の因は財政の紊亂と對外政策の軟弱にありとは事實也新内閣は如何

▲桂内　閣にして若しも財政を整理する能はず對外軟ならば國民は亦た更迭を促さん

▲山縣　公の意氣よりするも桂内閣の對外政策は必ず見るべき者あらんとは一般の評

▲桂内　閣を目して武斷派と恐るゝ外字新聞あり日本の國情に通せざるにも程がある

▲概評　すれば英國に譬れば山縣系は保守黨にて伊藤系は自由黨也何れも武斷に非ず

▲對外　政策に於て山縣系は伊藤系に優る所あり其施設も概して堅確の傾向を有す

▲株式　仲間にての藏相評判は後藤曾禰平田等にて後藤尤も氣受け能く曾禰之に次ぐ

▲平田　東助に至りては最も氣受惡く若し平田にして藏相たらば株は俄然低落せんと

▲伊東　巳代次後藤に向て曰く滿鐵は既に政治時期を過ぐ寧ろ偉材を臺閣に擢へよと

▲後藤　亦晒に入閣を諾するものゝ如し後藤の入閣は最早確定せりとも傳ふ如何にや

▲拓殖　會社創立は富豪等避暑の爲に在京する者少し爲に秋期に延すことゝなるべし

▲創立　委員段々增加して百十餘名となり此中韓國側三十名と總裁は矢張宇佐川也と

▲本月　末創立準備委員京城に來るべしそ其上定欵を作製し創立準備を爲す筈なりと

社告

今回京城新聞を創刊仕候趣意に付ては偏に讀者諸君の御諒察を仰ぎ候微力素より當らずと雖も諸君の御同情に答ふるの覺悟に御座候間何卒舊京城新報同樣御愛顧の程伏て願上候
追而舊京城新報社に關する債權債務其他殘務の一切は當方にて取扱申候に付左樣御承知相願申候

明治四十一年六月七日
京城西署西小門通
京城新聞社

●又の辨天れ貞

▲淫賣にも劣る醜行▼

曾て日露戰爭の當時浦鹽旅順大連と股に掛けて資本要らずの娼賣に同胞露助の嫌無く生血を吸ひ盡くし一時露探として怪まれたる程の鶴田ミツ(二十六)一名又の辨天れ貞は其の後如何浮世を渡るマグレ舟の舵を取り外したるか其後此の韓京に來り巴城館の女中とまで成り下りて表面だけは神妙に勤めて居たが何時迄も女中のミツどんにて暮らすノロマにあらず何かなして佳い椋鳥御座んなれと凄い眼をギラつかせて待ち構ねて居ると此れは臺灣滿洲と少なからぬ巾を遣つて今日の出の勢ある去る大官が新たに韓國爲政の樞要に任じられて來着したる際巴城館に假住居したが抑もの緣の初め何時かれ誂へ向きにミツどんと出來て味な夢を見たが其後此の大官所謂支給の官舍に入るに就ても未だ國許の北の方を呼び迎ふる準備に至らぬこそ勿怪の幸い需要ある處供給ありとして直ちにミツどんを呼び入れて差向いの乙な藝當ミツどん宛ら奧方に成り濟ましたる氣に成つて道はど自分の腕を自分に自慢して居つたも暫時間も無く眞の奧方が來る事になつたので今はと桂を喰ひ盡くすまで澄まし込んでも居れず遂に幾何かの涙金を頂戴して引下つた後は壽町一丁目に小さい家を借つて其の養母と二人格別香ばしくも無い日を送つて居る然るに此の養母と云ふが大概に年貢を納めて可い年をして居るにも係はらず十二三の小娘時代から今に忘れぬ蹈の味を誰彼れ無しに振まいて夫れは〳〵風俗壞亂の暴動ばかりミツの尻を推し遣り〳〵誰れにも關係せよ彼れにも關係せよと其處は老先き短い身の唯もう焦慮勝ちなればミツは素より這麼事は河童の屁程も恥かしいと思はぬ莫連女近所隣りに却つてこれ見よがしに門戸開放を遣つて居るとか困つた者もある者かなど投書の儘を掲ぐの如し

●洛東沿岸の水害

馬山よりの通信によれば客月下旬來連日の降雨にて洛東江增水し其の支流中川に逆流し來り昌原郡大山面なる村井吉兵衛氏の經營せる農場は二日午後八時頃終に閘門破壞し場內低地一帶は濁流氾濫し人畜には死傷なかりしも農作物及び閘門破損の爲め蒙りたる損害約二萬五千圓に上れり此の增水のため大山面より昌原城內及穩山方面に通ずる道路は不通となり唯進永村に通ずる部分のみ浸水淺きを以て僅かに通行をなしつゝあり水田は目下大半植付濟なるも殆んど全部浸水したるため農民は自然休業の姿なり尚一部の農民は今後の增水を慮り一時進永方面に向け老幼婦女を避難せしめたり水勢は昨今漸次減少の模樣なりしも八日夜來の暴雨の結果は再び增水の虞あり人心恟々たりと

●東亞開進教會の惡計

東亞開進教會は名を教育事業に藉り窃に營利に汲々として巧に人心を惑しつゝあり去る六月廿九日約四十名の會員は厄除祈禱會と唱へ官妓を聘し宴席を張らんとせるを以て當時西部警察署にては其重立者二名を召喚し同會の趣旨と反戻するものなるを說諭して解散せしめしに又もや本月八日同會黃峴支會員は東大門外紫芝洞料理店に於て出遊會と稱し宴遊を爲さんとするを以て東部警察署長をして其教育會なる名義の下に妓生を携へ會衆打集り遊興に耽る如きは本會の目的に反するものとの理由を以て解散を命じたるに會衆約百名妓生二十五名酒肴席に充ち妓生は將に演舞せんとする際なりしも何等拒むの色なく說諭に應じ直に撤退午後二時歸途東大門內演舞臺に休憩し各自携へ來りし晝飯を喫し五時同解散したりとは如何に同會が名義を利用して腐敗の種を蒔きつゝあるや推して知るべきなりかゝる卑劣なる人士により組織せらるゝ同會の如きは一日も早く其筋に於て國家の爲め解散を命ぜられんことを希望せざるを得ず

●獸疫の發生

馬山に於て六月廿八日以來本月四日迄に八頭の牛發病後斷食一晝夜にして何れも斃死す多分牛疫なるべしと云ふ又七月十日平壤にて牛一頭炭疽熱に罹り斃ると而して馬山地方は其の後益々流行の兆あるを以て獸醫を派し豫防方法講究中なり

●地方の虎列拉病

本月五日江原道金城管內にて韓人一名類似コレラに罹り死亡す尚本年各地方共多少コレラ病發生の報告ありしも此迄は調査の結果何れも類似症にして未だ眞正コレラの發生を見ずと

●南大門驛乘降旅客數

去る十一十二日の兩日に於ける南大門驛乘降旅客數は十一日には日本より降車四〇其他より降車八〇七日本へ乘車三三其他へ乘車八三九計一七一八にして十二日には日本より降車四五其他より降車八一六日本へ乘車三八其他へ乘車八二四計一七二三人なり

●仁川驛旬報

仁川驛本月上旬の乘車人員は千六人、降車人員千四百四十四人入場人員二百四十七人、發送小手荷物七萬三千五百六十五斤、客車收入金千八百五十三圓八十七錢、發送四十一萬二千二百十噸、到着一萬九千八百八十八噸、貨車收入金六千九百十八圓八十七錢、運帶到着拂金百七圓五十三錢、發送局用品十二萬九千七百三十二噸、發送無賃千九百八十二斤、到着無賃千八百七十二斤なりと

●牛乳業者の改善

今回商產會社荒井牧場生々舍水田新乳軒平山牧場等市內の各牛乳搾取場は組合を設け從來各個各別の行動を採り來りたる弊を除き牛種の改良を初め殺菌配達等に至るまで互に一致研究して改善を施し從來に比し一層醇良なる者を顧客に供給する筈なりと

●廣告屋の不埒子供を毆る

一昨日午前十一時十分頃廣告屋が宮町一丁目を練歩き居る際同町一丁目雜貨商香島榮太郎の長女玉江(八)と云ふもの紅葉の樣な手を出しチラシ紙を呉れと跡を逐ひしに廣告屋備韓人は無法にも掌を以て玉江の横顏をばイヤといふ程嚴付けたるより之を見て居た玉江の父保太郎はヨボの無法を憤り打て懸りしに廣告屋の親方花町三丁目居住高木重太郎と云ふ者自分の雇韓人に加勢し保太郎に敵對せしより此處に大騷ぎとなり大の男相互に立別れ打合の大騷動を演ずるに至りしを通行の巡查に認められ漸く取鎭められ懇々說諭を受けて事濟み

●避暑案內

▲朴淵の瀑 開城を東方に距る約三里の所にあり高さ二十丈韓國第一の大瀑布と稱せらる此瀑を源とした溪流の沿崖は奇岩奇礁簇立し最も風景に富み我耶馬溪の奇勝も之れに如かざるべしとは一部人士の稱なり此に遊ぶには開城東大門よりする方便なり道路少しく險なるも馬轎の便あり附近には二ケの寺院あり避暑の客は此寺院に投するを得べし最も食品の用意は必要なり又た開城萬月臺、釜山洞等も避暑の好適地なり

●自稱色男の大失敗

韓國勞働會事務所々員申泰永(三十)は生れつき至つて美男子にて此れ迄近所隣りの娘の兒にチヤホヤせられ自分も亦其の容貌の人並優れて男振り良きを鼻に掛け事務所の隙には何の用事もなきにソコ等コヽ等と年頃の娘や若き妻君の居りさうな所をブラ付き歩き專ら燒ふる許りなる下劣の慾望を充たさんことにのみ頭を惱まし居りしが其の內に於南大門外達洞三十八統三戸居住元敬民の三番目の實弟の妻女に道ならぬ思ひを掛け如何にかして其の妻女を自分の思ふまゝ弄びアツヨクば自分の持物にせんとタクラミ居りしが韓人の常として一般の女は內房に引き籠り居ることゝて思ふやうにならず而も煩悶の犬は狂ひに狂ひて氣も心も有頂天となり戀慕の情日を經るに從つて益々激しくなりツヒに我慢のし切れずなりしと見ね同人は厚倒間敷も去る十二日午後七時半頃豫て懇意の友人趙基鎬(三十)なるものを伴ひ其の妻女の住み居る家の門口にいたりてソツト內房を窺し用意せし艷書に石を包みて房內に投げ入れしが其の艷書は相憎く妻女の手に入らずして家人の拾ふ所となりたるより戸主元敬民は非常に立腹し右の艷書を携帶して其の筋へ出頭し其の不都合極まる行爲を訴へ出でしかば係官は申を呼び出だし痛く叱責せしが其の艷書といふは見るも卑猥の文句にしてツマリ今より自分の家妻になれといふ馬鹿々々しき書き振りなりといふ

●荷馬車逸す

昨十三日午前七時四十分頃會洞巡查派出所前に青毛八歲位の馬荷車を挽きたる儘逸走り來りたるを詰合の巡查大手を擴げて制止し約一時間程派出所橫に繫留して保護を加へ置きたるも持主不明なりしが軈て竹添町五番戸豐田熊吉方雇人山口事(二十)が南大門小學校前に繫ぎ置きたるものと判り同人に引渡されたり

●米人盜難

東大門外米國病院のペール氏方に去る八日午後八時より翌朝六時までの間に盜賊忍び入り姿見鏡外四點價格三十餘圓を窃取し去りたりと

◎夕暮

夕暮れに、ながめ見渡す兎茶屋、氷ラムネやビヤホール、客を松間の夕涼、アレ女郎衆が見よるぞへ

●洋服を窃まる

南大門外御成町鐵道管理局官舍二神幸作は去る九日午前八時より午後六時迄の間何れへか外出中洋服一着を何者にか盜まれたる旨其筋へ訴へ出たり

●又も不良氷販賣

西部六石里居住李三議(二十)と云ふ韓人は一昨十二日無檢查の不良氷を擔ひ本通りを飲料用として販賣し步きたること其の筋に判り引致の上處分されたり

●惡車夫の拘留

去月十一日明治町二丁目多田梅次郎方にて喧嘩口論の末梅次郎を亂打したる別府組車夫塚松增藏(三十)は拘留七日に處せられ當日出張の警官に向ひ惡口雜言を吐たる塚松の友達なる山田常吉(四十)は拘留三日に何れも昨日南部署にて申渡されたり

●馬鹿な事をする

明治町二丁目金光保次方雇人水野満(二十)は十日午後九時過ぎ南大門通りにて電車の後部に或は飛乘り飛下り頗る得意なりし處を警官に認められ警察に引致の上警官眼をむいて馬鹿なことをする

●南大門通りの小火

南大門通り一丁目氷水商小畑榊藏方より十二日午後九時三十分頃失火したるも幸に大事に至らず消止めたるが原因はランプの火を高く天井裏に近づけて點火しありたる爲めなりき

●龍山警察署の事故

龍山警察署に於て本月一日より十日迄に取扱ひたる警察事故は犯罪被害、窃盜六件日人六人)犯罪檢擧(窃盜一件其他七)傳染病(痘瘡日人男五人、同女二人、赤痢日人男五人、腸窒扶斯日人男五人同女一人)違警罪(件數三人員九拘留科料八)變死者(韓人一)說諭件數一七〇一日人男一四〇人同女八二人韓人男一同女二八四人)保護(件數一三八日人男一七人同女五六人韓人男三〇人同女九人なり

●傳染病三件

南大門鐵道管理局官舍五十六號印刷所人夫高木彌左衛門(三十)は去る八日同上官舍六十八號山本梅吉(三十)は去る六日同上官舍五十四號蔦生清(三十)は去る七日何れも腸窒扶斯に罹りたるを以て龍山避病舍に收容せられたり

暑中はがき

△清華亭女將れ勝裙へ

先達ては豐後別府の温泉に湯治と酒落込みなされ候由定めて能き湯治が出來候事と御察し申上候別府と京城とは大分距離も有之候事故米さんに嗅ぎ付かるゝ心配も無く命の洗濯は之れに限り候歸來南山町に御入櫻りの儀は別府の御疲勞もある事故些と御愼みなさるべく左樣は人間の五躰が續くもの無之候故時節柄とは謂ひ且つは未だ四十年增の最と艶なる御身前途も遼遠なるものあり傍此處暫時花屋敷に御引取あつて靜かに須磨か明石に別莊新築の御計畫の方可然歟と御注告申上候あら〳〵かしこ

●取消

御社發行の七月十日紙上に拙者に關する記事御掲載相成りしも事實大に相違せるのみならず甚だ迷惑に候間左の全文を掲げ御取消相成度候本年三月中旬知人の世話にて日本語を解し裁縫も心得居るとの事なるを以て尋常の雇女として拙者の宅に抱へたるものにて其後彼の語るところによれば幼少の折父母に死別れ不良輩の誘拐に遭ひ駱洞金德鉉なるものに買はれてカルボーを强られ日毎の苛責に堪かね不得止年月を送りたるも此上續けては生命に係はるを以て助け呉云々と故に其掛合中去八日金德鉉夫婦は十數名の惡者と共に拙者の不在に乘じ暴行を加へながら泣き居る彼を無理無体に連れゆきたる次第にて拙者は色情の關係から彼を雇入れたるにはあらずして其后彼の不幸を知り之を救はんとし却つて此の誤解を蒙むりたる有樣に候

七月十二日
京城櫻木町六十六番戸 菅羽惠顯
京城新聞社御中

●天氣豫報(自十三日午後六時至十四日午後六時)

南の風晴但驟雨

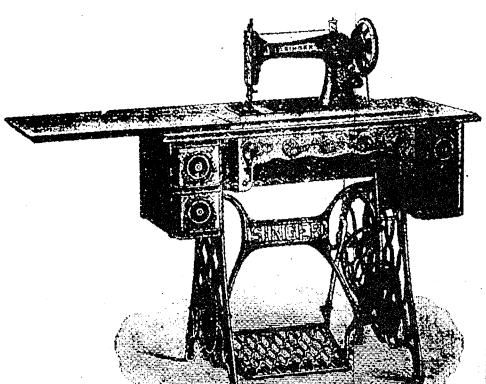
十二日午前六時各地氣象概況
風力弱く南部は雨天元山は濃霧の外は晴天相半ばせり

西の宮お樂の述懐（廿八）

◎飛んだ人の取り持ち

八百藏さんは藝人に似合はず見識の高い人ですから私が『頭腦を下げられますか』といつた一言に暫時チッと考へて居りましたがトウ〳〵『コンナ弱い稼業ですから頭腦を下げることにしませう何分ともによろしく……』と云ふ事になり其の晩は打ち解けて種々の咄に夜を更かし私は家へ歸りました、サテ世間の口と云ふものは五月蠅もので其の夜の事を誰か聞き知つたか今度來た市川八百藏とおらくとは東京以來お安くない仲でソレが證據には八百藏が仙臺へ着くと直ぐ逢引をしたと云ふ噂がパッと廣まつたのでムいます宜い面の皮ぢやアありませんがソンナ工合でしたから八百藏さんを元なしといふ仙台で有名な金持ちの女將に引き合はせるにも何の位骨が折れたか知れません『此の親方は東京からの知り合で此度當地へ乘り込みました譯なのですが私風情が如何程力瘤を入れた所でソレ程の事はなし此りやア如何しても女將お前さんに寄り縋るより外に思案がないと實はわざ〳〵今日親方をお連れ申したやうな譯なんで……如何かマア御迷惑樣でも此所は一番一と肌拔いて頂きたいので……』と賴み込んでも『イヽエもう私などが飛んでもないおらくさんお前さんは東京以來親方とは深い仲だといふぢやアありませんか何でもお前さんが心棒立の役者になつて働かなきやアいけませんツ……ソリやもう私だつて及ばずながら加勢はいたしますが……』といつたやうな工合で頻に八百藏さんと私の仲を疑つて居るのでムいますソコで八百藏さんも『女將飛んでもない……ソンナ妙な關係筋でおらくさんと御存じ申してるのぢやアありません……只昔の知り合といふので斯うして骨を折つて下さるのでムいます……、イヤソンナ噂がパッとなるやうな事があつては第一おらくさんに濟みません』と言ひ譯をしましたがナカ〳〵合點を致しません然し二人して隙いろ〳〵と懇意になつた事情や何や彼やらブチまけて咄をいたしましたので『ハアソンナ間柄なんでムいましたのですか……先くぐりをして濟みませんでした此れから出來る丈は骨を折つて見ませう……』とヤット得心が往きソレからは例の世話好きの本性を現はしましてソコヽと暇を惜まず驅けずり廻り引き務に觸り連中の五六組も揃へて大層に景氣を附けて呉れました其の緣故で八百藏さんと元よしの女將はトウ〳〵お安くない關係になつて了ひましたが八百藏さんに取りては此れが何の位の爲めになつたか知れやアしません所でいよ〳〵開場といふ事になりましたが其の人氣といふものは全く盛んなものでした（つゞく）





◉新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月金拾錢

◉廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎

印刷人 高木久馬太

發行所 京城新聞社 京城西小門外 電話六六三番